

健康的な天然木材の床

VOL. 24

フローリング・ニュース

2005年1月20日号 冬季号

発行所 日本フローリング工業会
編集責任者 広報法務委員長 笠倉 英明
〒135-0033 東京都江東区深川2-5-11
木材会館507号
TEL.03-3643-2948 FAX.03-3643-2990
<http://www.j-flooring.jp>

『年頭所感』

新年明けまして
おめでとう
ございます。



日本フローリング工業会
会長 田伏 恬弘

2005年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、昨年一年間、工業会の活動に多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

昨年は度重なる大型台風の上陸や新潟中越地震等、天災による被害が続き、被災地にとっては大変な一年でした。

一方、昨年の市況を振り返ってみますと、景気は依然として調整局面にあるものの、ローン減税の延長や若干の景気回復の追い風を受けて、新設住宅着工戸数が10月末で119万戸を突破し2年連続で増加するなど、当業界においては堅調に推移したように思われます。

本年の見通しとしては、住宅着工、民間非居住建築物共に昨年並みの着工が期待でき、市況の活況が予測されます。

工業会としては、住宅、建築物の床を支える団体として、広く木質系フローリングの魅力と確実な技術の普及、啓蒙に努め、会員の皆様と共に発展していく一年にしていきたいと思いを新たにしております。

生産部会においては、フローリングの利用推進及び価格の安定に努め、新JASに対応

した品質管理体制の確立、品質の向上と新製品開発に取り組んでまいります。

施工流通部会においては、技術委員会の力も得ながら、昨年完成したフローリング張り標準仕様書の普及及び定着を目指して、6月に東京と大阪での工業会会員や設計事務所などを対象とした講習会を開催してまいります。

技術委員会においては、昨年に引き続き、改正建築基準法のシックハウス対策に対応した施工を推進してまいります。

広報法務委員会においては、昨年12月に新しくスタートした工業会のホームページなどを活用しながら、業界内に留まらないエンドユーザーの方々への幅広いフローリングの啓蒙活動を積極的に展開してまいります。

本年はまた、従来のパンフレットを改訂したフローリングの魅力伝える総合パンフレットの刊行も予定しております。

各部会の積極的な活動と共に、会員各位の力を集結して、フローリング業界の明日を切り拓く一年にしていましょ。

本年は酉年。高く飛翔し、会員の皆様方が益々繁栄されますよう祈念し、念頭のご挨拶とさせていただきます。



生産部会風景

生産部会平成16年度第2回定例会議が10月28日、大阪市北区のリーガロイヤルNCBにおいて開催された。堀内副会長・生産部会長の議事のもと、原料の供給実態や需要動向などについて情報交換・協議が行われた。報告された主な内容は、以下の通り。

◎原板等原料について

輸入材が半数を超え主体。ナラは製材工場が減少し国内での手当てが厳しい。ロシアや東欧から原木で確保し原木から製品までの流れを造らないと確保できない状況。カバは中国から、ブナは欧州方面から割合安定的に入ってきている。特に中国のものは含水率などのバラツキが大きく、自社工場で最終加工して市場供給している。問題はイタヤ、アサダ。アサダは、品物が手に入って見積み、契約という状況。イタヤも引き合いがあるが、原木が高く歩留りが悪いので苦慮している。国産の針葉樹は堅調で数量的には充足している。

◎需要動向、製品動向について

物件はそこそこあるが、単価的に対応が難しく、苦戦している。従来は材工で対応してきたが、現在は製品を納入するケースが増加。また、年々ハウスメーカー中心に床暖房用フローリング

のウェイトが増え、特に無垢ものの引き合いが増えている。床暖房対応など機能性を付加したものの引き合いが多い。

新開発の環境対応型フローリングも、環境への配慮を重視しているところを中心に売れており、今後の市場拡大が期待される。

近年、公共物件は減少傾向。民需を主体として提案を行い、住宅向けが動いているが、将

来の需要の確保に対する不安が大きい。

首都圏では再開発関連が多く、複合フローリング主体の中、無垢の直貼フローリングを見直す動きが出ている。

名古屋以西では、体育館の工事が6、7年前の3分の1に減少。民間の小口需要に対応している。高齢者福祉施設が増え、内1～2割が床暖房用フローリングを採用している。

生産部会后、単層フローリングの需要促進PR活動について、関西フローリング協会との合同打合会議が持たれ、「フローリング張り標準仕様書」をもって役所主体に回ることとなった。閉会后、工業会・関西フローリング協会合同の懇親会が盛大に催された。



懇親会風景

平成16年度第4回理事会は、冬の晴れ渡った青空を背景に、東京都江東区の木材会館6階会議室で行われた。

会議は、田伏恬弘会長が国産材の供給体制の重要性を訴えて開始。続けて同会長は、関東のマンションを中心とした旺盛な需要や、関西、中部各地区の大型物件等に今後の期待を示す一方で、「アウトサイダー」台頭による競争激化を意識して対応していく必要があることを強調した。

引き続き、会員の異動が報告され、古田英之理事より新会員候補のオイラー株式会社(石川県金沢市)が紹介され、満場一致で入会を可決した。その後、平成16年度決算見込み、平成17年度予算案、中央官庁需要促進活動、その他「床暖マットの下地として使用する捨貼合板について」「2005サステナブル建築会議東京大会展示会」「下請取引の適正化について」など幅広く議論が交わされた。今回の理事会で強調された主な内容は次の通り。

◎中央官庁訪問について

ナラ・カバ・ブナ・ヒノキ等無垢の材木で生産された床板である単層フローリングの、快適性、環境面、健康面における優位性を説明し、各種公共施設等での利用促進を働きかけることを目的に2005年6月に実施する。

◎合板検査会関係

検査会から頂いている委託事業費については来年度も引き続き継続してほしい。輸入品検査料のウェイトが大きいのが、この規模を知ることによって日本全体で輸入品の流通量が把握できるため、事務局として検査会に問い合わせていくことは進めていく。

◎床暖房のクレーム関係

問題は、捨貼合板に5.5ミリ厚を使うことに起因することが多いと考えられることから、日本乾式遮音二重床工業会に対し、12ミリ合板の仕様への一本化について要望書を提出。床鳴りは



理事会風景

施工業者の自己責任となっていることから、工業会としては今後5.5ミリ厚削除を含め一層の取組が必要である。

◎工事価格について

床工事の内容に応じて、材料費の他の、必要なコストについても明確にした対応が必要である。

◎ホームページ関係

2004年12月1日に立ち上げた。今後は、総合パンフレット制作とホームページ充実に取組む計画である。

◎標準仕様書関係

仕様書完成を機に、講習会を東京と大阪の会場で2005年6月に開催する。



中部支部だより

現在、国内フローリング業界で全国的に問題となっている中国材について、中部エリアも例外なく影響を受けているので、まずこのことから指摘したいと思います。中国材に関係する最近の傾向としては、エンドユーザーがインターネットや雑誌カタログなどを見て、直接自分で材料を調達し、日本の施工業者に施工を発注するケースが増えていますが、実際に工事に携わってみると、サンプルでは合格点が出せていた材料でも、実際に施工用に届いてくるものは目違いや、直角が出ていない(施工すると隙間が出てしまう)などの問題が数多く発生しています。

こうした問題は、施工業者の作業工程に負荷をかけるばかりか、品質の高い国産材が不要な価格競争に巻き込まれてしまいます。会員各社の経営努力によって品質と価格でバランスの取れた、高いコストパフォーマンスを追求している工業会としては見過すことはできません。

一方、市況については、今年の愛知万博開催や中部国際空港開港関連で、仕事が増えていることは間違いありません。ただ、長期的に安定的な経営に不可欠な文教物件・自治体関連物件に関しては、新築などまとまった仕事はなく、補強工事など小規模の注文が入る程度で、厳しい状況に変わりはありません。やや良い兆しは、老人ホームやケアセンターなどの施設でフローリングの利用が増えていることです。大型事業物件に浮かれることなく、きちんと市場ニーズに応えていくことも、業界の長期安定には欠かせないと認識します。

製品と工事は一体です。アウトサイダーの台頭も目立ち、値下げ圧力ばかりが高まるなか、支部としては良質材の安定的な供給力と、高い施工技術力をきちんと市場に理解していただき、品質と適正な価格で、生き残りをかける方策を強化していく必要があるでしょう。

支部トピックス



株式会社ヤマイチフローリング 代表取締役 山本高士氏

愛知万博開催と中部国際空港開港に象徴される今年は、「中部元年」と言われています。フローリング業界でみれば、例えば結婚式が行える空港展望デッキのフローリング工事をはじめとして、昨年はこの2大事業の関連で大型工事が目立ちました。また、今年になっても、当該事業に伴う道路整備などの付帯工事によって、周辺店舗のフローリング施工などの需要が発生することは間違いなく、好況感は継続しています。

当面は、市街地の高層ビル建設ラッシュも進むことが予想されており、まさに「中部元年」を予感させる動きは加速しています。中部支部としては、地元のさまざまなニーズに応え、中部元年の実現を技術と品質で支えていければと思います。

この他、「世界のトヨタ」として躍進するトヨタ自動車の投資関係でも、お膝元である中部は恩恵を受けています。現在、トヨタはJR名古屋駅前地区の再開発に伴い「トヨタ毎日ビル」を建設し、関連工事で沸いています。さらに今年8月には、トヨタは全国に高級ブランドの販売チャンネル「レクサス店」を設置します。こうした店に設置されるVIPルームの床について、我々はカリン材を使用した無垢フローリングを提案しました。そして、採用されました。販売チャンネルは、基本的に全国同一仕様になると聞きますので、我々の提案したカリン材のフローリングの良さが全国に広まる良い機会となるわけです。

ユーザーに対してサンプルを送るという地道な作業とも言えますが、そうした機会を見逃さず拾い続けていくことで、大きなチャンスが生まれていくという印象的な出来事だったと思います。

会員会社の広告

掲載したい会員会社の方は、広報法務委員までご連絡をお願いいたします。

〈 広報法務委員会連絡先 〉

委員長 笠倉 英明	03-3490-3081	委員 高橋 一男	025-241-3243
委員 平畑 信夫	01237-2-1221	委員 山本 高士	052-413-0141
委員 阿部 隆嗣	0186-34-2311	委員 當舎 弘造	072-276-1600
委員 平野井景一	0184-56-2500	委員 久津輪光一	097-592-2122

〈 会員動向 〉

会員	78社
賛助会員	28社
合計	106社
平成17年1月26日現在	

〈 告知板 〉

3月3日～4日 平成17年度 理事会及び通常総会
[熱海市 ロイヤルウィング]

編集後記

新年明けましておめでとうございます。今年も工業会の皆様のご活躍を共にお伝えして参ります。どうぞよろしく申し上げます。(E)